

開催日；2020 年 9 月 4 日（金）18:05～19:30

会議の方法 WEB 会議（Zoom）

出席者；（理事関係）

馬場益弘 副会長、中澤信夫 副会長、大村雅一 常務理事、平松隆 理事、
橘田佳音利 理事、望月宣武 理事、菊池邦仁 理事、新田肇 理事、岩瀬喜貞 理事、
安田大助 理事、宇都光伸 理事、中村隆夫 理事、

（委員会関係）

八木達郎 外洋計測委員長、三浦信郎 レース委員会外洋小委員会委員長、
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長、
船澤泰隆 国際委員会外洋小委員会委員長、金子純代 キールボート強化委員会委員長、
服部好彦 ジャパンカップ委員会委員長、作田智恵子 艇登録 WG 長、
鈴木保夫 事務局長、坂谷定生 参与、鈴木一行 国際委員会外洋小委員会委員、
小林昇 国際委員会外洋小委員会委員、寺澤寿一 JSAF 事務局長、

記録者 橘田佳音利

大村常務理事入院中であることから、進行役は坂谷定生参与が引き受け 18 時 5 分、第 2 回常任委員会は馬場副会長の挨拶から始まった。

20 名を超える参加、9 つの議題、会員増強の取り組み、コロナに負けない外洋系組織の組み立て、コロナ禍におけるガイドラインに沿った予防対策による次ステップへの前進、学生会費免除へ多くの寄付、等に対する感謝や激励の挨拶を馬場副会長より頂く。

1. 外洋系の会員増強 WG の設置

大村・平松：

特有の会員管理の方法もあることから外洋系ならではの会員増強 WG を作ることにした。チーフに平松理事着任。短期的、中期的、将来に向けて、と分けてやっていくこと。9 月の団体長会議で加盟団体に依頼できるよう整理を進めるために検討していく。

菊池・作田・荒嶋・中里・平田・松永、（敬称略）を各地域からメンバーを選出、増強検討のたたき台をオンラインでのミーティングで行う。

たたき台…会員か非会員かにおけるレースへの参加料など、メリハリをつけていく。

外洋系の会員数は、(別表参照)

1999年時点で、会員数 3466 名、登録艇 1011 艇。

2019年時点で、会員数 2141 名、登録艇 746 艇。

このようになった原因分析をし、どのようにすれば会員が増えるかを検討していく。

目標 会員数 3000 名、登録艇数 800~900 艇。

2. 艇登録 WG の検討状況報告

作田・鈴木保夫：

現在の検討状況などが報告された。

2019年実際には 794 艇、本年現時点 698 艇、JSAF 含め 700 未満と思われる。

登録者を「食い止める」から、現在日本に 9000 艇ある艇に「艇登録してもらおう」へ視点変更し目標とする。

艇登録をするメリットとして先人のご尽力でライジャケ義務化対象外や免許更新の際の乗船履歴 5 年提示の特典(別紙参照)などが導入されましたが、艇数が減っては国との交渉もできなくなる懸念があります。

そこでこの艇登録制度はそのまま、会員以外でも登録可能な新艇登録制度を独立方法で進めたい、ついてはこれを機に今まで寺澤さんが行ってきた艇管理を独立させたい、皆さんに承認して頂けたら次のステップに進めたい。また別途現行のセール番号についても検討したい、と提言。

現在まで結果が出なかった理由として、具体的に、

- ・ JSAF のみならず各加盟団体の登録料が必要。

- ・ 艇登録したことによるメリットがない。

→メリットが必要。そのメリットは

各クラブのメリット

- ・ 草レースにおける未登録艇へのリコールナンバー貸与コストの削減につなげる。

登録艇へのメリット

- ・ 海上保安庁への艇ナンバー報告。(万が一の事故時の海保によるデータ保持による安心感)

などを考案中。

坂谷進行役により前出 提案・方向転換していくといことに賛成の可否を取ったところ全会一致で承認された。

3.第 13 回全国外洋加盟団体長会議（9 月 26 日） 企画案

大村：

大井町に於いて、会場と Zoom 方式の併用をすることになる。懇親会なし。（別紙参照）との報告があった。

4.外洋合同委員会（2021 年 2 月） 企画案

三浦；

来年 2 月 6 日 12 時半からの合同委員会について説明があった。（別紙参照）

- ・状況によってはオンラインのみにするかもしれないが現在検討中。
- ・懇親会は考えていない。
- ・会費と経費は外洋 4 委員会で負担。
- ・毎年翌日日曜日、各委員会のセミナーがあるが、案内は追って各委員会から行う。
- ・エントリー方法の変更 web にて行う。参加者負担軽減につなげる。
- ・リアルと web の併用により、今までは予算の都合で一人しか来られなかったものが、より多くの人の出席可能につながるのでは。
- ・2021RRS 改定ですので、スタート、フィニッシュの定義が変わるので、それについても告知。

また三浦委員より、合同委員会開催に際し、現場・オンラインどちらが良いか、意見が欲しい、との申し出に、各団体の意見を仰いだところ、オンラインが良いのではという意見が寄せられた。

5.各専門委員会・小委員会からの報告

《レース委員会外洋小委員会》三浦；

レースマネジメント オリンピック小委員会で作成したレースコミッティー向け、出艇申告システムの Trac Trac の提案。（別紙参照）

- ・マニュアルではなく手助けとして使用して。
- ・26 日団体長会議でも展開する。

服部：このシステムはとても面白い取り組み、非常に良い、有効だ、との意見。またオープンチャットに関しての実際の運用への質問。

→470 協会のトレーニングレース（於江ノ島）にてテスト中。良好。しかし連絡ツールであって、質問ツールでなく、公式ではない。ぐちゃぐちゃにならないよう、わきまえて使うことが必要との説明があった。

《ルール委員会外洋規則小委員会》日下部；

2021-2024 ルールブック発行への対応に関して（別紙参照）

翻訳ワーキングが中心であるが、翻訳は9月20日にほぼ出来上がる。

ルールブックは11月には皆様に手元に届く予定であること、先行予約を9月に行うこと、外洋合同委員会でもルール講習も行う、との報告があった。

また、ルールで外洋系特有なところで気になることがあったら忌憚ないご意見を頂きたいとの依頼があった。

《計測委員会》八木；

IRC と ORC の情報交換をすること、風通しを良くするということが最大の課題と議題であるとの現状報告があった。

《キールボート委員会》中澤；

来年のニューヨークヨットクラブのインビテーションカップはエントリー済み。代表の選考方法に関して近々に決める。現在までキールボート強化委員会が関係しているレースは中止にして開催されていない。通常3月に開催している学生マッチは開催できるようにしたい。との報告があった。

《ジャパンカップ委員会》服部；

ジャパンカップに関して特に大きな進捗はないとの報告があった。

《オリンピック外洋小委員会》鈴木一行；

ダブルハンド世界選手権 開催予定でレースに向け選考まで行ったが中止に。世界はダブルハンドに動いている。2024年のパリオリンピックに向け、男女ではなく性別問わずカテゴリー2で行われるようだ。との報告がある。

今後は国内にも目を向けたい。例えばパールレース・小笠原レース、沖縄レースに出すために、安全委員会・ルール委員会・計測委員会、とも連携してレースマネジメントしていきたい。との今後の展開に関しても言及された。

海洋大学と連携…小笠原レースにおいて、マイクロプラスチック採取を連携して行った。教育的な資料作りを目的とし、昨年11月に海洋大学とJSAFと連携、現在最終段階に入っている。環境問題を考えることが必要、との報告及び意見を頂く。

《国際委員会外洋小委員会》小林；

ワールドセーリング セーリングオフショアコミッティーの若い方への世代交代を。深沢さんをノミネーションしている。今年の世界セーリングアニュアルミーティングは web

開催。ORC・IRC ミーティングも web 開催。また植松さんに代わって馬場さんが引き継ぐ予定。との報告があった。

また IRC・ORC の情報の可視化を行っていただきたいとの意見が出た。

小委員会報告最後に、馬場副会長より

和歌山マリーナシティでのディンギーレースの、JSAF のガイドラインをしっかりと守った、徹底したコロナ対策・対応、参考となる状況を報告いただく。外洋もガイドラインを守ってレース活動を積極的にする。ひいては艇登録の増加、ワーキンググループの活動につながる。コロナ禍で何ができるかを考えていきたい。国際的にも外洋系が強い団体になるように、また新メンバーの活発な活動に、強いエールを送る言葉で各委員会の報告は締められた。

6. 各地域の報告（レース、イベント開催状況、コロナ対策等含む）

《外洋東海》坂谷；

春から全レースが中止に。10月の末から11月にかけてのレースを検討中。

《外洋南九州》宇都；

半年ぶりにクラブレース再開、その名も「with コロナ・ザ・カップ」。対策として web 艇長会議。NOR・SI 全てネット配布。懇親会・表彰式もなし、参加者集合機会ゼロで行った。参加者の喜び・感謝もいただき、2週間経て感染報告ゼロ。第1回再開レース、大成功裡に収めた。馬場会長おっしゃる通り、綿密に対応チェックなどやってマニュアル通りにやるのも良いが、堅苦しくなりすぎず、「コロナ対策は各艇責任をもって」と。クラブレースは続けていく。との報告を頂く。

《外洋東北》菊池；

漁港に船が集まってセーリングをするよう動き始めている。震災前からしていたクラブレースを始めようか、という状況。7～8年レースをやっていないので、とりあえずは帆走ってみようかという方向で考えている。

《三浦外洋セーリングクラブ》平松；

湘南レース約50艇集まり7月から再開。8月末トランス相模約50艇参加で行われるも、石廊崎レースは中止、パーティーなし。トランス相模レースでは、下田の町は閑散、ヨットマンのみという状態。我艇上でのクルー内でペットボトル回し飲みは禁止、各自名前入りコップにて、と感染対策徹底。誰も発症していない。

関東付近レースはかなり再開されている。との報告を頂く。

《外洋湘南》作田：

トランス相模で弾みが着いたと感じる。準備をしっかりと行えば主催者側としても安心して開催できる。パーティーがなくとも参加者はコアなところで開催できる。これはクルーザーの良いところである。と現状を報告いただく。

毎年関東4団体の共同の忘年会が計画されているが現在開催検討中とのこと。

各地の様子もわかり、ぼつぼつ始まったかなという感を受ける、との明るい兆しを感じる坂谷進行役の言葉で各地の報告は締められた。

7. 2020 横浜・フローティング・ヨットショー（情報）

ベイサイドで行われるこのショーは開催される。全国から20艇ほどクルーザーが集まり展示される。クルーザーはこれで少しは動きが出るのではと期待する。との説明が大村氏よりあった。

8. 明日9月5日の理事会について

明日の理事会に関して、資料のとおりであるが補正予算など審議事項もある。

- ・ 審議事項の概要
- ・ 協議事項：特別加盟団体申請（一般社団法人日本オーシャンレーサー協会）
- ・ 報告事項：日本スポーツグランプリ受賞者：齊藤実氏（酒呑童子）について。

授賞式は鹿児島国体の会場で行う予定であったが、国体が無くなり表彰式も無し。等の説明が大村氏よりあった。

宇都；日本オーシャンレーサー協会の特別加盟団体加入について、外洋常任委員会としてはウェルカムか？

大村；大西洋横断レースなどで陸上のサポートチームの紹介・サバイバルトレーニング開催などを行っている団体であり、むしろこの団体を取り込むことは2024オリンピックに向けて外洋界会としてメリットある、との回答がある。

上記、出席委員全員が確認した。

9. 第1回外洋常任委員会（6月26日）の議事録確認

出席委員全員により確認された。

10.その他

パラオレースに関して、鈴木保夫氏より新田氏に向けて質問及び提案があった。

1. OP レース教育のために外務省の補助金を受けているか？

新田；受けていません。

2. 共同主催の範囲はレース部分のみとの認識で良いですか？

新田；そうです。

1. OP 事業は JSAF が絡んでいると思うが、どう絡んでいくのか JSAF と調整の必要がある
と考える。
2. 日本財団の登録団体への登録内容に関して。アクア船舶が、レースの企画及び主催をす
る、また代表取締役が JSAF 理事、と登録・継続掲載されているが、企業がレースを主催
することは JSAF の枠ではコンプライアンス上問題ありと懸念。削除なりの対応が必要
ではと考える。
3. パラオの実行委員会以外の方が事前準備に同伴したという話が聞こえてくるが、今後の
為にも誤解を招かないように開示すべき。
との提案があった。

新田：ご意見は拝聴。改善していくところは改善していく。との回答があった。

OP レースに関しては、外洋常任委員会なりで協議し、報告を今後もして頂けると良いので
は、と坂谷進行役からも提案があり、この件に関しても出席委員全員が確認した。

最後に馬場副会長より

- ・このコロナの中でも大人の集まりとしてしっかり感染症対策をし、海に出ていくという行
動、そしてレースをしていかなければならない。
- ・地域差はあるが、海に出なければ競技人口も減っていく。活性化を含めて深い議論が必要。
- ・報告事項も重要だが、今後どうしたら良いか、という議論を重ねていくべき。
- ・今後の外洋常任委員会も集まれる人は集まって、お互いの顔を見て行っていくことも必要。
- ・遠い地域からは参加しにくい、ハイブリッド或いはリアルでやっていく、オンラインオン
リーは避けてゆきたい。
- ・深い議論で、外洋の発展につなげてゆきたい。

など強い思いを提言頂く。

それを受けて大村常務より、

17日は難しいが、団体長会議はハイブリッド考えているとの返事を頂く。

この会議は坂谷進行役の下、19時半定時に滞りなく終了した。

議事録確認 菊池邦仁